



# 俳句

( 2 0 2 3 )





た べ も の 俳 句	モ ー ロ ク 俳 句	歳 時 記 俳 句	目 次
12 ↳	7 ↳	1 ↳	

#### <文月>

短冊に歌や字を書いて、書道の上達を祈った七夕の行事に因んだ「文披月（ふみひらづき）」が転じたものといわれています。また、穂が見えるようになる頃であることから「穂見月（ほみづき）」が転じたという説もあります。「ふづき」とも読みます。

季節：晩夏（ばんか）※小暑から立秋の前日まで。

（宇佐美保幸）メール・yasuyuki.usami@gmail.com

毎日の俳句は次のブログに

巣鴨とげぬき徒然俳句

<https://blog-haiku.777usami.com>

七月の河馬は退屈齒磨きを  
夏の海レイズドベッドのアゲラタム

ゴージャスにグラジオラスが咲き誇る  
上段にグラジオラスは構えけり

どきつとし赤き赤きのゼラニウム  
花のない庭に夏蝶迷い込む

幽霊も河童も涼む夏柳  
パソコンの機嫌が悪し梅雨暑し  
パソコンも機嫌損ねる梅雨暑し

胡蝶蘭贈られ先で墮落する  
黒揚羽お墓はどこに準備した

蝉時雨辛抱せよと早朝に  
蝉時雨そんな昔を懐かしむ



蝉落ちて動かぬ蝉に蝉時雨  
それほどに誰を呼ぶのか蝉時雨

あめんぼう飴にあらずやみづすまし  
スニーカー洗い週末水すまし

何事も有耶無耶でよし梅雨明ける  
梅雨明けをよろこぶ蝶が我が庭に

鈍行は生きる知恵なりかぶと虫  
山椒魚起源求めて宇宙かな

クーラーをつければきしむ我が家かな  
反物になるまで遠き綿の花

振れても素直な影を振花  
花の数競い競いて凌霄花  
のうぜんは登り登りて花咲かす



風鈴を騒々しきと都会人

風鈴はみぎひだり無くただ揺れて  
錆びてこそ南部風鈴余韻あり

運不運人されどいまあり雲の峰  
捨て猫も叫べばロック雲の峰

蟻地獄ブラックホールと合い似たり  
考えず無駄に考え蟻地獄  
蟻地獄見つけた夜の悪夢かな

つけまつげ毛虫を連れて原宿へ  
差別あり置きどころなき毛虫かな  
嫌われて差別気の毒毛虫かな

愛嬌と割りきることも箒草

浮き沈み生きているのかただ金魚



金魚にも強面がいて威嚇する  
ゆらゆらと金魚の腰は落ち着かず  
くず金魚格差に負けずたくましく

月下美人けさはまぼろしあの匂い  
朝帰り月下美人が恨みけり  
月下美人美人なれども独身か  
昼の暗月下美人は何憂う

虐待を憎み雷とどろけり  
不本意に立ち飲み酒場夕立に  
夕立あと東京盛り場人あまた

ブログ書く何故か律儀に短夜も  
短夜や明日につなげしブログ書く  
短夜に夢から覚めて夢忘れ  
短夜や命養い眠りけり



仏桑花雄しべ雌しべを際立たせ  
主義主張多様化社会麦茶飲む  
喜雨を得て庭の鉢植え生き返る





モーロク俳句

七月やモーロクすれば流木に

モーロクし夫婦の間合い冷奴  
モーロクしされど繰り言冷奴  
モーロクし徒然幻想冷奴

おじぎ草モーロクすればやるせなし  
グラジオラス愛憎半ばモーロクし

ほうたるの湧き出る闇にモーロクす  
モーロクしけらくけらくとクラゲかな

朝食べるバナナ一本モーロクし  
モーロクし甘酒に酔いとうとと  
モーロクが夏風邪ひいてよくわかる



夏風邪も油断大敵モーロクし  
夏風邪や味覚どうやらモーロクす

夏蝶や少しうとましモーロクし  
モーロクし何故かふくよか夏の蝶  
モーロクし頬骨尖る夏の蝶

モーロクしされど氷菓を常備する  
あずき棒舐めてしやぶりてモーロクす

モーロクしされどパン梅雨明ける  
脳味噌がモーロクすれば梅雨明ける

モーロクしからくれないの熱帯魚  
モーロククの吾より退屈熱帯魚

モーロクしされど夢見る合歓の花  
モーロクし死はあのをあたり合歓の花



青柿がつぎつぎ落ちてモーロクす  
モーロクし世間厳しく柿青し

風死すや吾はモーロクおし黙る  
モーロクし風死すそして我も死す  
モーロクし寝そべるベッド風死して

モーロクし不機嫌つのりソーダ水  
モーロクし為す術もなくソーダ水  
昼寝覚この世に戻るモーロクし

まんぼうを見てモーロク夕焼ける  
感慨もなくモーロクゆやけ見る  
モーロクし睨み睨まれ出目金や

モーロクし喜色満面アロハ着る  
モーロクし余生のアロハ涼しけれ



モーロクし嘆きの果ての向日葵や  
モーロクしひまわり迷路地獄道  
モーロクし向日葵既に重きかな  
向日葵に襲われ襲うモーロクし

炎昼の影が小さくモーロクす  
炎昼のおのれの影もモーロクす

モーロクしあの世を決心蝉しぐれ  
蝉時雨モーロク脳はがらんどう  
モーロクし思い出解体蝉時雨

入道雲子供に還るモーロクし  
モーロクしされど力を雲の峰  
雲の峰モーロクすればこもる癖  
奮起せよモーロクすれど雲の峰  
モーロクし命賭けるか雲の峰



モロククし海見ぬままのサングラス  
モロククしされど平然サングラス  
モロククしされどちよいワルサングラス

炎天をモロクク一人歩きけり  
モロククしされどうれしき生ビール  
モロククし生き抜くために生ビール  
モロククしたただ飲むだけの生ビール

モロククし悩みを捨てて遠火花  
モロククし命の色の火花や  
火花に飽きてモロクク煙なか  
揚火花半端に生きてモロククす  
モロククし線香火花やけどをし

人恋し夜の雷鳴モロククし  
モロククし何の別れか晩夏かな



たべもの俳句

夏バテにニンニクキュウリスタミンナを  
酢に和える野菜選んで半夏生

豆腐にてにら入りピカタ梅雨つづく  
いじめられトマトは懸命甘くなる  
嫌いです甘いトマトは昭和人  
瀬戸の塩かけてトマトのサラダかな

酷暑日にちよつと贅沢寿司ランチ

かわはぎの肝をあしらい薄造り  
暑き日もホットコーヒーモーニング

あんパンを雲海のなかで食べにけり  
切ってみよ完熟メロン狂気あり



悪いけどバナナはやはりモンゲーだ  
青じそで香りおにぎり爽やかに

南蛮やとろりと揚げたなすを漬け  
ひりひりと花椒効かせ麻婆茄子

熊蟬に合わせ朝食納豆を  
納豆を加えオムレツ夏の朝

夏野菜たっぷり冷や汁麦ご飯  
あずきバー朝昼晩とデザートに

暑き日はじゃことゆかりの塩むすび  
ヨーグルト加えて夏のチキンカレー

老いてなお甘さ辛さやソーダ水  
ブログよりジャズが好きソーダ水



ソーダ水昭和は青く懐かしく  
ソーダ水昭和の青を守りけり

デジタルの世にも健在心太  
物忘れ無駄に嘆いて心太  
別腹か不要不急の心太

レンチンで無限ピーマンツナとあえ  
ピーマンの肉詰め破裂月曜日

焼き鯖も時に味変カレー味  
汗をかきされどラーメン激辛系

銀ぶらでフルーツあんみつマンゴーを  
祭り寿司味に面影焼き穴子  
亡き母の穴子たつぷりちらし鮨

真夏日にスープカレーで汗をかき



肥満体丸く丸くと水茄子は  
芋焼酎一銘柄に拘りて

冷やうどん生姜焼きそえスタミナを  
冷やうどん鶏天添えて贅沢に

引っ越しの箱に囲まれ缶ビール  
餃子に酢ラー油もたらし缶ビール  
生ビール乱高下する兜町







